



夢よ育て・元気と笑顔が集う東白川
東白川村議会活動情報誌

くらしと議会

発行 東白川村議会
編集 東白川村議会編集委員会
住所 岐阜県加茂郡東白川村
神土 548 番地
電話 0574 - 78 - 3111

平成十九年第二回定例会を開催

病院事業会計決算など十二議案を可決

第二回東白川村議会定例会は、七月十日に開会し、一般質問三人、条例改正等四件、一般会計補正予算（補正後の総額十七億三千八百四十九万一千円）ほか、特別会計補正予算四件、「有害鳥獣対策の抜本強化を求める意見書」などを上程し、同日可決承認されました。

一般会計補正予算の主な内容

本定例会では、村道の路線認定、条例改正三件のほか一般会計補正予算と特別会計補正予算四件が上程されました。

一般会計補正予算は、当初予算と比較し、全体で約二千万円の増額となりました。

歳入の中で大きいものでは、久須見農用道トンネル工事の宿舎に係る貸付収入、前年度の繰越金、コミュニケーション助成金等があります。

歳出では、四月の機構改革に伴う人事異動による人件費の組み替えが大半を占めています。

また、今年度村内二十六カ所に設置する防犯灯の設置事業が、二百五十六万七千円補正されました。

○村道の路線認定

・長瀬六号線（中通）

・ゴウ口線（中谷）

○一般会計補正予算

（歳入・歳出）

二千三十九万円

（総額）

十七億三千八百四十九万一千円

平成18年度病院事業会計決算	
医業収益	2億4,985万2,131円
医業費用	3億2,815万4,040円
医業外収益	8,871万3,286円
医業外費用	578万3,384円
病院事業収益	3億3,856万5,417円
病院事業費用	3億3,453万6,518円
当期純利益	402万8,899円

病院会計は、前年度に続き黒字決算

では一千五百五十万円減少するなど収入減の要因が重なりましたが、入院患者の増加や一般病床の稼働率改善、医療機器リース等の終了、減価償却費の減少等により一般会計からの繰入は一千万円の増加で抑えることができました。

しかし、医師不足や療養病床の削減など、地域医療を取り巻く環境は今後益々厳しさを増すことが予想されます。

十八年度の病院事業会計は、前年度に引き続き約四百万円の利益を挙げて決算されました。全体では、国の医療政策の転換による診療報酬の大幅な値下げや、入院部門における看護基準の変更などにより、医業収益



▲一般質問を行う安倍徹議員

有害鳥獣対策の意見書提出

第二回定例会では、村で多発しているイノシシ被害の対策として、議員発議で左記のような意見書を議決。国会、内閣、県議会に対して提出しました。

内容は次のとおりです。
有害鳥獣対策の抜本強化を求める意見書

近年、野生鳥獣の生息分布の拡大・増加とともに、農林漁業者の高齢化等に伴って、農山漁村にあっては、野生鳥獣による農林水産業被害が深刻化してお

り、農林漁家が営農の意欲を失い、農山漁村の過疎化をさらに加速化させている極めて深刻な状況となっています。

ついては、被害の深刻化・広域化に対応して、有害鳥獣対策を抜本的に強化されるよう、次の通り要請します。

- 一、生息数等の的確な把握に基づく対策
- 二、広域的な被害防止対策
- 三、捕獲に関する規制緩和
- 四、専門家の育成・確保
- 五、財政負担の軽減
- 六、人と野生鳥獣の棲み分け

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する

平成十九年七月十日 提出
東白川村議会議員 服田順次
※原文一部省略

臨時会を開会 八月二十三日



▲臨時会終了後、久須見災害現場を視察

八月二十三日、第二回臨時会を開き専決補正二件を承認、工事請負契約一件を可決しました。

工事請負契約の内容は、加茂東線災害復旧工事にかかる契約締結です。この工事は、加茂東線の工事途中に二度にわたり土砂崩れが起こったもので、平成十八年度繰越分を含め、総額五千万円余の大規模な工事です。

議会終了後、議員全員でこの久須見地内の災害現場と中学校体育館耐震補強工事の視察を行いました。

議会・行政研修会をスタート

「議会と行政が、知恵を出し合ってこの村の難局を乗り越えよう！」議会総務常任委員会では、この六月から隔月偶数月に一回、夜間に行政職員とともに村の置かれた状況を的確に把握するとともに、研鑽を深め課題を克服するため「議会・行政研修会」をスタートしました。

六月二十七日に行われた第一回の研修会では、初回にもかかわらず活発な意見交換が行われました。この日テーマは「今後の財政運営の見通し」。通常、総務常任委員会や全員協議会では、担当課長が出席し、事業説明や進捗状況の説明等を行います。この研修会では、係ごとに直接担当者から説明を聞くことも一つの目的に位置づけられています。日ごろは議員と接する機会の少ない係長以下の若手職員も出席し、一歩踏み込んだ内容の濃い研修会となりました。

毎回テーマと担当係を変えながら行っていくこの研修は予定では、今年度中に行い、状況を見ながら次年度以降も続けていく計画です。



▲総務課企画財政係と研修会のようす

一般質問

7月10日の定例会で、3人の議員から村政全般についての質問が行われました。その一部をご紹介します。

安江利英議員

- ・今後の村の活性化について
- ・地方債の支払利息について
- ・美濃東部農用道トンネル工事の対応について

三点ほど伺います。一つ目は、今後村の活性化をどのような方法で推進されるのか。次に、村が借り入れている地方債について三・五割以上のものがかなりあるようですが、借り換えとか繰り上げ償還で対応することが必要かと思いますがこの点について、最後に美濃東部農用道のトンネル工事について漁協との問題で中断していますが、今後の対応について伺います。

答弁(安江村長)

最初に村の活性化についての質問ですが、就任当時申し上げましたように第四次総合計画に沿って進めていく考えであります。村民全員が村づくりに参加できる体制を築き、先人が培ってきた地域の団結力をますます強固なものとし、苦しいときは互いに助け合う素朴な人情を再確認し、自分の地域は自分で守る体制を作っていきたいと思

ます。幸い白川加子母線も全線二車線化が完成し、昨年完成しましたCATVは、ネット販売が成長しております。好景気の名古屋圏に位置し、風光明媚な景観を維持する本物の田舎を全国に発信し村の活性化を図っていききたいと思

きます。活性化ということは、一度に大きく変えることは難しいわけですが、小さいことをコツコツと皆様のお知恵をお借りしながら進めていきたいと思います。次に地方債についてですが、

現在までの財政健全化施策の中で、過去二回の繰り上げ償還を実施し、平成十四年、十五年の二年間で六千万円の繰り上げ償還を実施しました。この結果、ご指摘のあった七億五千万円については全て政府資金、もしくは公営企業金融公庫からの借り入れになっており、これら公的資金は、繰り上げ償還を行った場合借入先に対して保証金を支払わなければならないシステムであるため、メリットが全くありません。しかしこのほど、国の公債費負担対策として十九年度から三年間、一定の条件を満たしていればこの保証金が免除される制度が導入されることになりました。この制度では利率

五割以上の起債が対象となりませんが、村が対象になるかは、秋に示される基準が発表されないとわからない状態です。久須見のトンネル工事については、去る七月一日に久須見での地元説明会が行われましたが、今後は県条例により、検討委員会を設置し、そこで協議された対応策に従わねばならず、その間三ヶ月程度かかるようですが、少しでも早期の着手をしていただくようアプローチをしていきたいと考えています。

今井保都議員

- ・ふるさと納税制度について
- ・名商大セミナーハウスの取り壊し後の対応について

現在、政府で検討されている「ふるさと納税制度」について少しでも格差社会を解消するためには、必要不可欠と思われるので、地方からも中央に対しアピールをしていただきたいと思

います。次に名商大セミナーハウスについて、取り壊した後、村に払い下げていただけないか交渉してはどうでしょうか、村長のお考えを伺います。

答弁(安江村長)

一つ目の、ふるさと納税制度については、私も実現すれば有難いと思っておりますが、政府が発表して以来様々な問題が提起され、遅々として進んでいないのが現状です。一朝一夕にふるさと納税制度が立ち上がるとは思えません。議員のご指摘のとおり、私も賛成の立場で、どんどんアピールすることが大切であると心得ています。二つ目の名古屋商科大学セミナーハウスの取り壊しについては、大学側では跡地利用は



▲取り壊しの進む名商大セミナーハウス(8月1日撮影)

特に考えていないようです。学長のふるさとであり、大切にしたいとの考えですので、村としても荒廃することのないよう見守りたいと思

います。また、今のところ売却計画は無く、もし村が、教育施設を建設するならば、話し合いに応じるとのことですが、現時点でそういった計画はありません。

安倍 徹議員

- ・急速に進む高齢化の中での東白川の農業振興について

新世紀工房とふるさと企画が民営化となりましたが、今後、特産物生産者の高齢化によるトマト生産、白川茶生産への影響を憂慮しています。

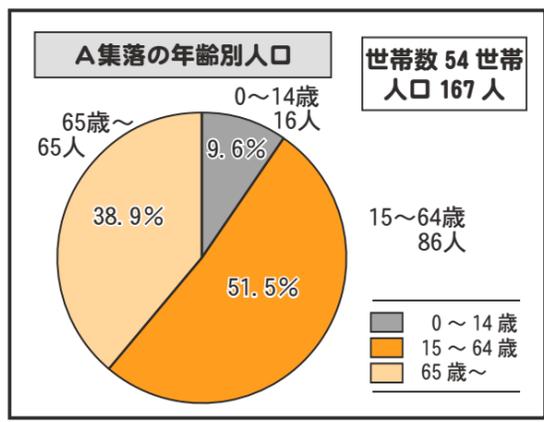
下のグラフは村内のある集落の年齢別人口割合を示したものです。世帯数は五十四、人口は百六十七人ですが、六十五歳以上の高齢化比率が、村全体の三六・七%に比べ三八・九%という高い数値になっています。こうした現状が対策を考えると

いっているうちにどんどん進行してきます。また、後継者があってもほかに職業があり、農業の衰退は進行していくばかりです。この急激に進む高齢化に対して村長は農林部門の今後の見通しについてどのようにお考えか伺います。

答弁(安江村長)

議員のご指摘のとおり、高齢化もさることながら跡継ぎはいっても農業後継者はいないといった問題は切実です。過去十年間の農業生産の比較では、水稲、緑茶、園芸作物いづれも減少しているのが現実です。

これは、私の推測ですが、高齢者の皆さんは、せいたくはで



きなくても年金等で生活はできる、きつい農作業から卒業したいという方が増えているように思

います。今や高齢者が担っている農業を衰退させないために後継者の育成は急がれる課題です。また農業は、経済活動のみならず、自然保護環境維持、景観保全と多面的な要素があります。こうした意味でも農業を維持していくことは大切です。お茶に関しては、美濃東部区域農用地総合整備事業による茶園整

議員のさしこみ

七桁農業を目指そう。年収百万円の所得を得るにはどうしたらよいか?農家の長男に生まれた私はごく自然に春里で遊び、三年後村に帰った。しばらくして村ではブルトーザーがうなり茶畑、桑園を開墾、茶工場、蚕室を新築、何万本の苗木が植樹され村中が活気に溢れていた。

きみまる風に「あれから、四十年...」僻地ほど手厚かった地方交付税、万遍なく与えられていた各分野への補助金は、骨太の改革の名の下にカットされ、収入の道を閉ざされた

地方は益々苦しくなってしまう

備が村内3カ所で一・二三珍造成し、新品種を取り入れ、五加茶生産組合と新世紀工房で経営を行っています。経営形態や後継者育成は大切になります。水稲については、農業サポーター部が大半の作業を請け負ってくれますので高齢者でも可能と思

います。将来的には地域の農業団体で管理ができないか模索しています。今年、私の地区で3年間ほど耕作放棄となっておりました水田三十五アを地域の皆さんにご無理を申し上げ作付けをしています。経済的にどんな結果になるかはわかりませんが、これは一つのモデルとしてこうした形で地域で農地を守っていくスタイルも今後の後継者育成の一つの方法になるのではないかと考えています。

特に後継者の問題は、村の将来にとっても大きな課題です。いすれにしても無い物ねだりではなくあるもの探しに切り替えて農業の荒廃を防いでいきたいと考えています。

た。そこで、少しでも地方に活力を『地産地消』が合言葉のようになっている(この四文字熟語?、元農水官僚で現衆議院議員、篠原孝氏の造語だと最近知った)。

高齢化が確実に進み、自主財源に乏しい地方にあって身近な産物を見直して少しでも農村に活力を生み出すためには耳ざわりが良い言葉ではあるが、有るもので済ませようとすると、なんとなく寂しい、又『予算が無い』と口癖になっているのも悔しい、始動した地産物品の商品化への投資を惜しみなく進め、村の元気を取り戻すためマズ一歩みだそう。

文責：安倍 徹